



「語り継ぐ戦争」開催へ意気込む実行委員会のメンバー＝県庁

戦争の記憶語り継ぐ

17日、笠間学生ら演劇、朗読

戦争を直接知らない若者たちが戦争の記憶の伝承に挑戦。終戦から70年の節目の年に合わせ、笠間市旭町の筑波海軍航空隊記念館

で17日、県内の学生などが取り組むイベント「語り継ぐ戦争」が開かれる。同館の開館1周年も記念し、戦争に関する演劇や朗読などが行われる。

イベントは「語り継ぐ記憶実行委員会」が主催。同実行委は昨年12月、ボランティアとして同館の運営に携わってきた県内の大学生と専門学校生約10人が中心となり、立ち上げた。

当日披露される演劇は、食糧難で困窮した戦中から戦後にかけて

のある家族を描いた「一つの花」。主人公の幼児は同市内の子どもが務め、家族などは県立友部高演劇部生徒などが演じる。筑波学院大生が脚本や音響を担当する。朗読は、地元の元朗読会に所属する小中学生が、戦争に関する物語などを取り上げる。

同隊を題材に調査研究した筑波大人文・文学部4年の矢作美佳さん(22)の講演と茨城

大生による戦争に関する紙芝居なども繰り広げられる。

同館近くの関連施設の旧地下戦闘指揮所では、戦時中の写真や体験文などを紹介する「記憶のプラネタリウム」が実施される。

同実行委は8月の終戦記念日に向け、新たな行事も計画するなど、引き続き記憶の伝承に取り組む予定。

同実行委メンバーの

矢作さんは「今回のイベントは」戦争を知らない世代同士が戦争の記憶の伝え方を模索する機会でもある。あらゆる方々に来ていただきたい」と呼び掛けている。

同館ホームページに各企画の開催時間などが掲載されている。問い合わせは同館☎0296(73)5777。(今井俊太郎)